レッスン20“A”

テーマ：アガピ/愛

LOVE20A.EN/DOC

私の兄弟・姉妹達よ、

スピリット、光、そして火の子供たちよ。私たちは常に神、絶対、神の聖性に包まれています。

アガピとはギリシャ語で、愛という意味です。私たちの瞑想とエクササイズではアガピという言葉を使用しています。なぜなら、そこには神の愛に同調しようとする私たちの努力を助けるようなバイブレーションがあるからです。

　　アガピという言葉を繰り返すことによって、私たちは神を呼びだそうとしているのです。なぜなら、神はアガピであり、私たちの目的は神のアガピと同調する状態に到達することですから。アガピという言葉を使用する事情を明確にしましょう。アガピという言葉は完全なものですが、それは必ずしも、誰にとっても同じという意味ではありません。アガピという言葉は完全な言葉であると言いましたが、絶対存在の絶対愛を指す時には、私たちは時にはそれを汎アガピ（Pan-Agapi)と呼ぶこともあります。そして、その愛が生の現象内にある場合にはアガピと呼びます。

このアガピはエロスとは違います。エロスという言葉は情緒、気持、そしてエロスの肉体的面であるエロティシズムに関係する愛として一般に理解されています。基本的に、人間はアガピをエロティシズムと混同しており、このことが人間の歴史における多くの苦しみの原因となっています。

アガピおよび汎アガピはエロティシズムとは全く無関係です。なぜなら、エロティシズムは物質界におけるLifeの現象の世界にのみ関係するからです。サイコノエティカル界におけるエロティシズムはイリュージョンです。

既に述べたように、**アガピという言葉よりパワフルな言葉はありません。**勿論、エロティシズムとして表現されているアガピのことではなく、神を表現するアガピのことです。神について、当分の間私たちはそれを認識せず、神を現していません。しかし、私たち各人が神を現わす時が来るでしょう。

　　アガピという言葉の波動に関しては：現在のパーソナリティーであるセルフ・エピグノーシスによって適切に、正確に使用された場合、最終的にアガピの波動に同調できるようになるためには必ずしもギリシャ語を話す必要はなく、アガピという言葉の意味を知っている必要さえありません。

アガピとは誰であり、アガピという言葉で人間は何を理解するのでしょうか？アガピという言葉を使用する時、私たちは何を呼びだそうとしているのでしょうか？アガピとは単に絶対存在であり、それは創造界（＊複数）におけるその全ての表現における汎アガピです。

絶対存在とその表現に関して、人間は何を知ることができるのか？…と考えるかもしれません。一つにして唯一の神、絶対存在は三位一体の状態にあり、この三位一体は創造界においてキリストロゴスと聖霊として表現されています。これら二つの現れは絶対英知のレベルにまで、その中に三位一体を有しています。

どのようにして、どこで、それらは創造されるのでしょうか？絶対存在がそのアウタルキー（＊自足状態）の中で、黙想の活動として、それらを創造したのです。キリストロゴスと聖霊は、絶対存在がスーパーサブスタンスであるマインドを使って創造界の中で自分自身を顕現させ、表現するための両手なのです。

Page2

神はアガピであり、神の中にあるものは全てアガピです。なぜなら、全ては神だからです。神の自足の中で現わされたものは全て神であり、従って、活動としての神の黙想、そして現れとしての神のブレーシス（＊全肯定的意志）はその中に三位一体を有しているのです；上の如く下もしかり。

絶対存在の二つの表現、キリストロゴスと聖霊は最小なものから最大なものまで、一本の髪の毛に至るまで、絶対英知の中で全てを創造します。全てが数に入れられ、絶対英知において創造されるからです。創造の陶酔の瞬間に、偶然という要素、あるいはでたらめにサイコロを投げるというような概念が入り込む余地は、創造についてはありません。

　　それが誰にとっても同じ意味を持つということはありませんが、アガピという言葉は確かに完全なのです。人間は一般に自分が興味を抱いている観点から理解しがちです。時には、他の人々がハートで感じていることを、表面的に理解することもあります。アガピという言葉は、私たちが絶対存在に関して、Lifeの現象としての創造に関して、そして人間が他の人間との様々な関係において使用する場合、その意味を理解する上で非常に注意する必要があります。

アガピとは元型、イデア、法則、原因の世界の中での多くのイデアの一つと見なすことができるのでしょうか？それらの世界が築かれるためには、聖なる絶対英知、絶対善、絶対パワーの黙想とブレーシスが必要であり、この三位一体の中には既に汎アガピが存在しています。それは絶対存在と同じであり、絶対存在のIs（＊存在すること）のことです。この黙想の結果、その生みだされた結果が新しい別の表現としてアガピを含むことは不可能であることは明らかです。なぜなら、その現れは既に存在し、絶対存在の三位一体の中で出会っているからです。従って、アガピを多くのイデアの中の一つと見なすことはできません。

アガピは絶対存在であり…アガピは神であり…アガピはLifeそれ自体なのです。アガピはそれ自体で完全であり、そのような意味ではそれは恐らく一つのイデアであることはなく、むしろIs（＊存在）なのです。アガピのある状態、ある現れを絶対存在のアガピと区別するためには、私たちはそれ（＊絶対存在のアガピ）を汎アガピと呼びましょう。もし汎アガピを光(\*Light)としての無限の光とするなら、時間・空間内のアガピの意味はロウソクの光、あるいは太陽の光に相当するでしょう。従って、時間・空間内のアガピは汎アガピの現象なのです。アガピは光として現れており、通過する光の波動に従って、それはサイキカルな光、ノエティカルな光、ノエティックな光、そして超光(superlight)を現すことができるのです。汎アガピは絶対存在です。そして、聖なるモナドは多重性の中の絶対存在の部分であるので、アガピもまた聖なるモナドの本質、聖なるモナドの霊的存在(Holy Monad Spirit Being)の本質の中にあるのです。

大宇宙的にみて、アガピは自足状態にある絶対存在であり、汎アガピが顕現するために、神の聖なる黙想とブレーシスを表現するために、キリストロゴスと聖霊が絶対存在の両手として働いているのです。

諸宇宙（＊複数）は聖霊とキリストロゴスによって築かれていると述べました。そしてこのアガピの結果として、私たちが知っている超銀河（＊複数）、銀河（＊複数）、太陽系（＊複数）が存在し、植物界、動物界が存在するのです。もしアガピが聖霊およびキリストロゴスの本質そのものでないとしたら、いかにしてそれはそのような愛をもって、そのように注意深く築くことができたのでしょうか？いかにして創造界、宇宙を生み出し、そこにサブスタンスを与え、維持するために、自らを与えることができたのでしょうか？

　　従って、現れとしての創造における最初の原理はアガピです。次に、当然、キリストロゴスと聖霊はアガピの表現なのか、あるいはアガピそれ自体なのか、という疑問が生じてきます。キリストロゴスと聖霊は絶対存在それ自体であり、従ってそれらはアガピであり、同時にアガピの表現でもあるのです。

　　アガピは何かを授受する、交換するといった興味なしに与えられており、快不快の要素もありません。それは丁度、人間の態度の善し悪しに関らず、恵みある太陽の光が全ての人間に与えられているのと同じです。

Page3

小宇宙的には、人間だけがアガピを知ることができます。しかし、人間が実存の諸世界、Lifeの現象の世界の中で汎アガピを体験することは可能なのでしょうか？

　　思考・行動の仕方として三つの体をマスターし、支配できるレベルに到達した現在のパーソナリティーならば、勿論、汎アガピの多くの特質を表現することは可能です。しかし、そのパーソナリティーは物質界の影響下にあるので、それを維持することはできません。

　　一般に、現在のパーソナリティーはアガピをフォース（＊エネルギー、force）として体験し、そのフォースはその人のセルフの中心の周囲を回り続けます。私たちは今、現象界におけるアガピを、中心の周囲を回転するフォースとして理解しています。Lifeの現象内、時間・空間という枠内で人間によって表現されるアガピは、現在のパーソナリティーのセルフ・エピグノーシスのエゴティズムを、その中心として有していることがわかるでしょう。

　　それ故、アガピと汎アガピの間には大きな違いがあることがわかります。大宇宙的には、絶対存在はLifeを与え、神の愛の現れとして、私たちにはLifeの現象があるのです。ロゴスはこの世界に来る全ての人間のために道を照らし、何もお返しを求めません。

私たちは肉体の全ての細胞の中に、そして全ての原子・分子の中心に聖霊を有しています。聖霊は肉体を構築し、維持するのみならず、同時に様々な仕方で働き、肉体がその環境の中で機能するための手段を与えています。私たちは自分の肉体を酷使し、打撃を与えているにもかかわらず、小宇宙の中でこのような働きが行なわれています。気づかなくても、私たちは絶えず豊かに与えられており、愛の思いやりによって賢明に面倒を見てもらっているのです。

神の聖なる汎アガピの外にある宇宙、物質界、サイキカル界、ノエティカル界、あるいはノエティック界を想像することができるでしょうか？神がいる所には、汎アガピがあります。汎アガピについて理解すると、同胞の人間に対するアガピがどういうものであるかが理解でき、さらに「隣人を自分自身の如く愛せよ」という言葉の意味も理解できます。なぜなら、

隣人とは実際には自分自身なのですから。

**セルフ・エピグノーシス(Self Epignosis)を現象、および分離の世界のイリュージョンから浮上させることに成功すると、小さなエゴを越えたセルフ・エピグノーシス(Self Epignosis)として、私たちは全てと一体であり、私たちは全ての人々の中にある…私たちは彼らであり、彼らは私たちである…ことに気がつきます。**

この段階では、アガピと呼んだエネルギーが物質界において回転しているその中心から私たちは逃げ出すことに成功し、汎アガピの味を味わえるようになります。これは超意識の瞬間に、インナーセルフと同調している時に起こります。

汎アガピは極小から極大まで、あらゆる所に遍在します。程度、物差し、区別、比較はありません。全てが全ての中にあるのです。

　　私たちがイリュージョンの世界にいる時、汎アガピの現れについて完全に理解し、悟ることは不可能です。理由は、私たちが愛とみなし、理解しているような満足を提供する全ての現象が回転しているその中心から、私たちが離れるのは容易なことではないからです。このような愛から離れるためには、まず私たちの中心を動かして、利己的であることを止めなければなりません。

次の疑問は…全てに汎アガピが賦与されているのか？…ということです。もし汎アガピが存在しなかったら、何も創造されなかったことは明らかです。

汎アガピを大きな三角形と考えてみてください。三角形には三つの辺と三つの角があります。一つの辺は絶対善であり、それは汎アガピです。二つ目の辺は絶対英知、そして三つ目の辺は絶対パワーです。全ての元型、イデア、法則、原因は神の汎アガピを通じて築かれるのです。

さらに、次のような疑問を抱くかもしれません…絶対善があらゆるところに遍在しているなら、なぜ悪が存在できるのか？本当は悪は存在しません。無知が存在し、それは時間・空間的現象です。思考・行動の仕方としての人間の気づきが高まるにつれて、ますます多くの光がアガピとして射し込んできます。私たちの思考・行動の仕方が螺旋的に上昇すると、悪の意味が除去され、あるいはむしろ善という概念がより高いレベルに移行するのです。

Page4

私たちは全員この変化を個人的に体験しています。それは時間と共に来るものです。歴史は、その当時は受け入れられていた非人間的な行為で満ちています。同様に、現在は受け入れられている行為も、将来は受け入れられなくなるかもしれません。

善と悪に関するテーマについては、近い将来もっと詳しく学ぶことになります。現在の所は、アガピについて瞑想することが重要です。Lifeの現象において豊富に与えられているアガピについて瞑想してください。瞑想し、エロティシズムとアガピを区別したら、次にあなたが自分の環境や世界において、思考・行動の仕方としてあなたを通じてどの程度アガピを放射しているか、考えてみてください。

私たちは常に神、絶対、神の聖性に抱かれています。

EREVNA/ASERIES/AGAPI20A/DOC